

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信

第74号 2009年7月

やどりき水源林ニュース

発行 (財) かながわトラストみどり財団 編集 NPO 法人かながわ森林インストラクターの会
 220-0073 横浜市西区岡野2 12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内
 045-412-2255 URL: <http://www.ktm.or.jp> E-mail: midori@ktm.or.jp

定例観察会のお知らせ (費用等負担はありません)

毎週土曜・日曜に「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。午後1時までに、やどりき水源林ゲート前までお越しください。

なお、7月25日・26日と8月の土日は10時半と1時の2回案内を行います。

初夏・生き物たちの水源林

水源林は梅雨真っ盛りですが、雨が降れば沢の中は大騒ぎ、生き物たちにとって大切な様々なものが流れてきます。落ち葉やコケ類を食べる水生生物、それを捕食する溪流魚など、今回は寄(やどりき)沢の中を覗いてみました。



岩の裏を網ですくうと、一度に様々な生物が採れます。



サワガニ：川の上流から中流域にかけて生息しています。水質階級Ⅰ(きれいな水)の指標生物です。日中は石の下などにひそみ、夜になると動きだしますが、雨の日などは日中でも行動し、川から離れた森林や路上にいたこともあります。



カワゲラ (幼虫)：胸が3つに分かれており、流れのゆるやかな溜まった落ち葉や石の間に住んでいます。浅い沢の明るい区間に多くいます。尾が2本です。



ヘビトンボ (幼虫)：川底の石の下にいます。大きなあごがあり、他の水生生物をエサにしています。大きいものは7~8センチに成長します。



ヒゲナガカワトビゲラ (幼虫)：最大級のトビゲラで、信州の珍味「ザザ虫」の佃煮で有名です。釣り人の間では「黒川虫」と呼ばれています。



シマトビゲラ (幼虫)：軟らかく、イモムシ状です。ヤマメの大好物です。

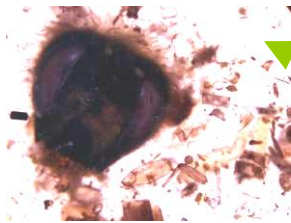
ヤマメの胃袋を覗いてみました（専用のスポイトを使用しています）



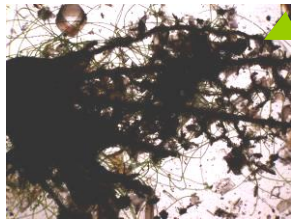
渓流に住む魚は、イワナ、ヤマメ、アマゴなどが有名ですが、丹沢山系の緯度ではヤマメが主流です。まれにイワナもみかけます。体側に楕円模様（パーマーク）のあるのがヤマメ、見分け方は簡単です。



関東大震災で震源地となった丹沢では、渓流魚も壊滅的な被害を受けましたが、その後の放流によって生きています。



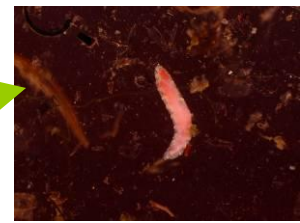
バットの頭？



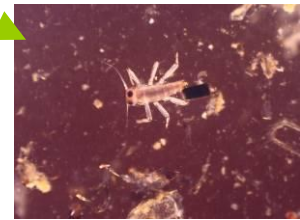
バットのはね？



ヤマメの胃袋にあったのは、水生生物（おおきなものから小さなものまで）藻や砂、分解した葉っぱなど、大食漢でした。



トビゲラの幼虫（半消化）



カワゲラの幼虫（約2mm）

水源林入り口に掲示板を設置しました



水源林入り口の管理棟（三角屋根のログハウス）付近に掲示板を設置しました。

四季折々の動植物の見所や鹿の管理捕獲に伴う立ち入り禁止の情報など、かながわ森林インストラクターの会が随時更新しています。

立ち寄りの際は、散策の前には是非見ていただき、旬の情報を手に入れてください。

また、気がついたことがあれば本ニュースの連絡先までお知らせください。

7月のトピックス

川遊びの方が多くなってきます。やどりき水源林エリアでは、焚き火、ゴミの放置は厳禁です。ご理解とご協力をお願いいたします。



8月の水源林

タマアジサイが渓流を彩ります。お出かけください。

